

# さくらほっと NEWS

vol.48  
令和元年夏号



ハートチームのメンバー

TAVI(経カテーテル的大動脈弁留置術)を  
開始しました。…2

整形外科部長に村上教授が着任 …………… 4

名市大病院のチカラ Vol.16 …………… 3

マクロファージ活性化で尿路結石予防の可能性

市民公開講座・セミナーのご案内

## 地域医療機関と名古屋市立大学病院の地域医療連携



\* 国の方針に基づき、地域医療連携を推進しています

総合内科・総合診療科 総合的・全人的な診療 -すき間の少ない医療を目指して-

## 胸を開かず心臓の手術を! カテーテルを用いた大動脈弁の留置手術

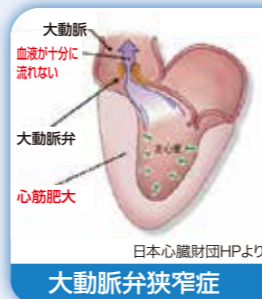


循環器内科  
大手部長

いよいよ当院でも2019年4月より準備万端に大動脈弁狭窄症に対し経カテーテル的大動脈弁留置術(TAVI(タビ): Transcatheter Aortic Valve Implantation)を開始することになりました。私が医師になった約40年前は、単純な心臓カテーテル検査でさえ覚束ない時代でしたが、今や胸を開けることなくカテーテルを通して人工弁置換ができるほどに循環器病学は進歩いたしました。欧米におけるTAVI施行症例数はすでに外科的大動脈弁置換術例数を凌駕しております。名市大病院では、循環器内科、心臓血管外科、麻酔科、メディカルスタッフが一体となったハートチームが、この画期的な治療法を安全に実施いたします。

### 大動脈弁狭窄症とは

心臓は4つの部屋でできていますが、なかでも左心室が全身に血液を送る重要な役割を担っています。そのためには左心室が十分にポンプとしての機能を果たすことはもちろんのこと、その出口、すなわち大動脈との間にある大動脈弁が正しく機能する必要があります。左心室が収縮し大動脈に血液を駆出する際に、普通は大動脈弁が十分に開くのですが、この大動脈弁が硬くなって開きにくくなってしまふ病気のことを「大動脈弁狭窄症」といいます。重症になると、胸痛や失神、息切れといった症状が現れ、さらには突然死に至る場合もあり、適切なタイミングでの治療が必要となります。



### 経カテーテル的大動脈弁留置術(TAVI)とは

重症大動脈弁狭窄症に対してカテーテルを用いて人工弁を留置する治療法です。従来、重症大動脈弁狭窄症に対する治療は胸を開いて外科的に大動脈弁を取り換えてくる手術(外科的大動脈弁置換術)しか方法がありませんでしたが、TAVIは重症大動脈弁狭窄症に対する新たな治療法で、患者さんに対する負担が低く外科手術と同じ効果の得られる画期的な技術革新です。2002年から世界で臨床応用が始まり、最近日本でも保険適応になりました。当院でもカテーテルと手術が同時にできるハイブリッド手術室の整備が整い、TAVI実施施設としての認可を受けました。



現在、この治療法は従来の外科的大動脈弁置換術を行うことができない、手術ではハイリスクな患者さんに行われる治療の位置づけになっています。足の付け根の大腿動脈から、あるいは左胸に小さい穴を開けて、バルーンを装着したカテーテルを挿入し、狭くなった大動脈弁まで人工弁を運び、バルーンを広げて人工弁を植え込みます。外科手術とは違い胸を大きく開かず治療が行えることから、低侵襲であり患者さんへの負担も相当に少なくなります。しかし、外科手術リスクの高い方が治療対象であり、また重篤な合併症が生じることもあるので、適応・治療方法の選択の際には十分な検討を必要とする治療となります。当院でも循環器内科・心臓血管外科・麻酔科・看護師・臨床工学士・放射線技師・理学療法士を含めた多職種で「ハートチーム」を結成し、患者さん一人一人に対して十分な検討を行い安全に治療が行えるようにしてTAVI治療に臨んでおります。



総合内科・総合診療科  
兼松部長代理

総合内科・総合診療科とは、一言で言えば「総合的な診療を提供する」科ですが、実際には様々な役割が求められます。専門診療科に分化した規模の大きい病院では、各々が特化してより縦に深い診療を目指せる一方、横幅に対しては応用が利きにくい側面がありました。我々は、特定の臓器や専門領域に偏らず、幅広い視点から見渡したりすることで多くの手がかりや情報を集め、複雑な病態の疾患を診断したりします。また、健康寿命が伸びて複雑になってきた健康上の問題点も、整理したりしながら、解決する手助けも行っています。もちろん、その為には、院内の多くの診療科にも協力して頂くことも必要ですし、院外の地域医療機関とも連携したり、医師以外の、例えばソーシャル・ワーカーさんなどにも協力をお願いしたりして、患者さんやご家族を中心とした総合的な医療連携を築ける事が重要です。

が、その架け橋を担うことも当科の役割です。こうした横断的な診療を行う当科は、発足してからまだ日も浅く、従事する医師の数も多くはありません。少ない医師数や経験の少なさに、まだまだ至らぬ点も多くあると思いますが、院内外の多くの方に支えられながら、医療上の様々な「お困り事」に対して、可能な限り柔軟に対応できるよう努力しております。「すき間の少ない医療」が提供できるよう、少しでも還元して皆様の期待に応えたいと考えておりますのでよろしくお願いたします。



### リハビリテーション科 未来を切り開く次世代リハビリテーション



リハビリテーション科  
植木部長代理

リハビリテーション科は「少し聞きなれないな」と思われる方も多くおられることでしょう。医療は目覚ましく進歩し、以前には治療困難であった疾患に対して様々な先進治療が可能となりました。一昔前であれば生命にかかわるような病気を治療することが可能となり日本は世界一の長寿国となりました。今後は、病気の撲滅のみならずいかに心身共に幸福に生きるかという生活の質(QOL)が重視される時代になっております。病気の治療と同様に精神・身体機能を維持・向上させることは重要であります。なぜならば会話をすること、食事をする、歩行すること、日常生活動作をすること、社会参加することすべてが人間の基本的な人権の基盤となるためです。リハビリテーション科は患者さんの精神・身体機能障害に重点を置き、早期の社会復帰や家庭復帰を目指して、各診療科と提携をして病氣と身体機能に着目した全人的な医療を提供していきたいと考えて実践しております。

の患者さんに対して認知・言語能力、生活上の動作能力、生活の質という観点から統合的に障害像を把握し、治療計画を立て、チームでの包括的治療を実践します。主に呼吸・歩行機能(理学療法士)、上肢・高次脳機能(作業療法士)、言語・嚥下機能(言語聴覚療法士)等の様々な障害に対して多面的アプローチを行っております。また、小児の患者さんには、発達訓練も積極的に行っております。

大学病院としての先進治療としては、痛みなく簡便に頭皮上から脳活動を向上させるニューロモデュレーションという新たなリハビリテーションを行っており、特にパーキンソン病関連疾患などの神経疾患の患者さんに対して外来で治療を行っております。今後も、名古屋市民の健康寿命とQOLを高める次世代リハビリテーションが提供できるよう患者さんと共に歩み、未来を切り開くリハビリテーション科を目指していきたいと思っております。



リハビリテーション科では医師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚療法士でチームを組んで個々

## 整形外科部長に村上教授が着任



整形外科  
村上部長

整形外科部長として金沢大学から着任しました村上英樹(50歳)です。整形外科は非常に範囲が広く、背骨を扱う「脊椎外科」、上肢では「手外科」と「肩関節外科」、下肢では「股関節外科」と「膝関節外科」と「足の外科」、スポーツによるけがや障害を扱う「スポーツ医学」、四肢や骨盤の腫瘍を扱う「骨・軟部腫瘍外科」、小児の先天性疾患を扱う「小児整形」、その他にも「リウマチ外科」、「骨粗鬆症・骨代謝」と多数の専門分野があります。私の専門分野は脊椎外科ですが、中でも特に脊椎のがんが専門です。我々はチーム医療を重視し、他科の先生だけでなく、病院中のスタッフと協働し、よりよい医療を目指します。そして、常に患者さんの立場に立って考え、治療していきたいと思えます。『医は仁術』これが医療の原点であると思っています。

## 研究のご紹介：マクロファージ活性化で尿路結石予防の可能性



泌尿器科  
岡田准教授

尿路結石は、腎臓内でできた石が下降して尿管が詰まり、背部に強烈な痛みを引き起こし、放置すると腎不全や尿路感染を引き起こす、命にも関わる疾患です。泌尿器科の岡田淳志准教授らの研究グループは、過去にはマウスを用いた実験によって、白血球の1つである「抗炎症性マクロファージ(M2)」が結石を溶かしていることを発見しています。このたび、ヒトの尿を解析した結果、尿路結石患者はM2を活性化させるたんぱく質「インターロイキン4(IL-4)」が低い値を示すことが分かり、尿路結石の予防に繋がる重要な発見となりました。

今後も患者さんの診療に役立つ新たな治療の開発にも取り組んでまいります。



## 市民公開講座・セミナーのご案内

### ●市民公開講座

日付	時間	会場(定員)	講演者	内容	問い合わせ先
7月28日 (日)	13:30~ 15:30	大ホール (病棟・中央診療棟3階) (300名)	国立長寿医療 研究センター 西川満則 医師 ほか	あなたは、人生の最期を どう過ごしますか？	名古屋市立大学病院 地域包括ケア推進・研究センター TEL:052-853-8537
8月17日 (土)	13:30~ 15:00	大ホール (病棟・中央診療棟3階) (300名)	名古屋大学 未来社会創造機構 葛谷雅文 教授	健康長寿の秘訣 ~フレイル・サルコペニア を予防しよう~	名古屋市立大学病院 地域包括ケア推進・研究センター TEL:052-853-8537

すべて事前申込不要(先着順)・費用無料ですので、どうぞお気軽にご参加ください。